

〇9月18日(月・祝)開催

兵庫県山岳連盟行事同調例会 バスハイク

国生み伝説の島・淡路「沼島へ」

一王山支部 嶋田みどり

数年前のお正月明けに、淡路島へ84歳の母と最期の旅行に行きました。冬の日差しが柔らかく快適なドライブ。南淡路方面からフェリーで沼島へ行けそうだと、ネットで見て行ってみました。島に着くと、ほとんど地元の人には会うこともなく、たまに観光客らしき人たちを数人見ただけで、とても静かでのんびりと散策ができました。上立神岩を見たいと、母も頑張って歩き、冬の荒れた海の中の巨石見たときの感動は今も覚えています。

そんな思い出のある島へ、ヒヨコのバスツアーがあると聞き参加しました。

前回は町の真ん中を通る近道で海まで歩いたので、ヒヨコなら、山の中を通るコースだろうなあ、期待しました。

到着後、地元ガイドさんの案内で行きは“おのころ神社”から山道に入るコースを歩きました。浜から10分ほど坂を上がったところに神社があります。なかなかの階段、気温もかなり高かったので結構汗かきました。



それでも振り返ると海の景色が広がり淡路島本島も見えて、気持ちいい。ここから見ると淡路島はとても大きく感じます。日本で4番目に大きな島だそうです。

ここで古事記にある国生み伝説をガイドさんから聞き、矛をぐるぐる回して持ち上げた最初の滴の一滴が沼島だと教えていただきました。島の形も勾玉のよう。

「ひょっこりひょうたん島という人も」勾玉の形は赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいる時の形と似ている。すべての根源。近くにはくるくると矛を回してるかのような「なるとの渦」も有名だし、ここはまさに国生み伝説の島だと納得できます。

海までの山道は穏やかで、時折海からの風が心地よい。もう少し季節が秋に進めば絶好のハイキングコースだと思います。

センニンソウ、ヤブマオ、ツリガネニンジン、クズ、ツククサの群生などの花たちも目を楽しませてくれました。



1時間ほど歩いたところでお昼休憩。おいしそうな淡路屋さんの秋を感じる栗ご飯のお弁当。

豪華に松茸も入っていてとても美味しかったです。

そのあとは15分くらいで海岸に着きました。ガイドさんが「上立神岩は神の宿る岩ですから、上から見下ろさずに下から見ましょう」と、海の方までずんずん降ります。

下まで降り、左手の海を見ると、30mほどの高さある巨石が柱のようにそびえ立っていました。これが上立神岩。この周りを、イザナギ、イザナミ



の神様がぐるぐる回ったとされている巨石です。  
ここはちょうど日本の中央構造線上に位置する場所。

フィリピンプレートと太平洋プレートが折り重なる場所で、何かとてつもないエネルギーを秘めている感じがします。

北側の淡路島とは地質も、植生も違い、豊かな海の幸にも恵まれています。

海上交通ではこの辺の航路は難所も多く、はるか昔から船を巧みに操る水軍が道先案内をしていたという。

「卓越した知識もあり、気概と高い能力を持った海の民」と司馬遼太郎の作品にも登場する沼島。たくさんの武勇伝があり、今も島の人たちの誇りとなっています。



【神宮寺の中に司馬遼太郎の作品から引用した石碑がありました】

今では人口も 600 人。小学生、中学生も数十人と減少していますが、漁師さんも観光ガイドで島の魅力を発信したり、伝統のだんじり祭りも盛大に行われたりと、ここに住む人々の島への愛情を感じることができた一日でした。

偶然ネットで見つけて母と訪れた島がこんな歴史も深く、昔からたくさんの人たちを引き付けた場所だったと知ることができ、今回のバスハイク、いい思い出となりました。

参加 37 名(内、岳連 1 名)